

代表者名	代表取締役社長 若杉清一	所管部課名	産業経済労働部観光課
所在地	田沢湖町生保内字下高野73-2	設立年月日	昭和44年7月22日

【沿革、及び、県の出資理由】

昭和45年の国体を契機に田沢湖スキー場を開設するに当たり、スキー場の建設・運営に民間活力を活用すべきとして設立される。県の出資により、経営の安定化を支援する。

【出資者】(15年度当初)

(百万円、%)

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	179.25	45.7
市町村	1	62.60	16.0
その他	84	149.87	38.3
計	86	391.72	100.0

【事業】

主たる業務

特殊索道事業(リフト)
旅館業(スキー場ロッジ)
飲食店、売店業(スキーハウス)

事業実績

(百万円、千人)

事業名等	12年度	13年度	14年度
スキー場入場者	145	134	139
売上高	528	456	413

14年度事業概要、及び、15年度事業計画・目標

平成14年度は、シーズンインが遅れたものの、後半比較的に天候や積雪量などに恵まれ、また料金体系の抜本的見直しを図った結果、入場者数が対前年比で増になった。リフト券単価を下げた影響もあり、顧客1人当りの消費金額が減少したため、売上利益の増にはつながらなかったものの販管費の節減等に努めた結果、経常利益では黒字を確保できた。15年度は、さらにサービス向上を図り誘客を促進する一方で販管費の効率的な運用に努め、経営・事業の一層の効率化を図っていきたい。

【組織】

運営機構



役員数

(人)

	取締役	監査役
常勤	2	
内、県OB		
非常勤	8	2
内、県OB		
内、県職員	2	
計	10	2
内、県関係者	2	

職員数

(人)

正職員	17	正職員 平均年齢	46.4
内、県OB			
出向職員	1		
内、県職員			
臨時・嘱託		正職員 平均勤続年数	18.6
内、県OB			
計	18		
内、県関係者			

【財務】

損益状況(14年度)

(百万円)

	金額
経常収入 A	425
受託事業収入	32
補助金収入	
自主事業収入	378
運用益収入	
その他	15
経常支出 B	421
人件費	93
その他	328
経常損益 C = A - B	4
経常外収入	0
経常外支出	3
当期損益	1

(百万円)

県の損失補償額	県の債務保証額

財務状況(14年度末)

(百万円、%)

	金額	構成比
流動資産	41	12.6
固定資産等	285	87.4
資産計	326	100.0
流動負債	17	5.2
短期借入金	0	
固定負債	0	
長期借入金	0	
引当金等	0	
負債計	17	5.2
資本金	391	
剰余金等	-82	
資本計	309	94.8
負債・資本計	326	100.0

(千円 %)

退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率
	74,181	0	0.0%

【県の財政支出】

(千円)

	12年度	13年度	14年度	支出目的・対象事業概要等
補助金				
委託費	7,943	8,046	8,046	秋田県田沢湖高原駐車場保守業務(観光課)及び駒ヶ岳入山規制業務(自然保護課)
貸付残高	429,500	0	0	平成11年10月無利子融資、13年10月資産買取により相殺

1 主な経営指標

項目		単位	1 2 年度	1 3 年度	1 4 年度	12-13増減	13-14増減
健全性	自己資本比率	%	0.14	76.38	94.67	76.24	18.29
	借入金依存率	%	98.27	0.00	0.00	98.27	0.00
	流動比率	%	63.76	109.46	241.12	45.70	131.66
収益性	剰余金（欠損金）	千円	553,031	248,626	246,777	304,405	1,849
	経常利益率	%	10.16	5.55	1.00	15.71	4.55
	総資本利益率	%	3.14	6.47	1.30	9.61	5.17
発展性	経常収入額	千円	544,012	468,865	425,077	75,147	43,788
効率性	総資本回転率		0.31	1.17	1.30	0.86	0.14
	職員1人当たり経常収入	千円	28,632	26,048	23,615	2,584	2,433
	人件費比率	%	16.35	17.21	22.94	0.86	5.73

2 経営目標の達成状況

経営目標			1 2 年度	1 3 年度	1 4 年度	1 5 年度
経営改善指標	営業利益（千円）	目標	0	0	0	10,000
		実績	46,792	23,460	6,563	0
経営改善指標	販売管理費比率（%）	目標	0	0	0	83
		実績	93	81	88	0
事業成果指標	入場者数（千人）	目標	0	0	0	145
		実績	145	134	139	0
事業成果指標	売上高（千円）	目標	0	0	0	435,000
		実績	528,403	456,123	413,143	0

3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

入り込み数は、シーズンインが遅れたものの、後半天候にも恵まれ対前年比増になりましたが、リフト料金値下げに伴ってリフト収入では、対前年比減になりました。仕入原価の見直し等による販管費の削減など経営の効率化に努めましたが、期中3名の退職金の負担が大きく、営業利益においては、マイナス結果となったものの、経常利益においては、黒字を確保することができました。

引き続き「サービス売る産業」として、コース整備の徹底や、レストランメニューの充実など顧客サービスの向上に努めるとともに、販管費の見直しを進める中で、営業宣伝活動を強化すること、またスポーツセンターや他の宿泊施設等、地域の関係者と連携した取り組みを進めることなどにより、一層の誘客促進を図ることが課題です。

4 総合評価

概ね安定した経営内容	一層の努力を要する経営内容
全国的に利用客が減少している中、リフト料金の見直しや営業努力により、利用客が増加したことは評価できる。	
引き続き、一層の収益性向上に取り組み、累積損失の縮小に努めることが必要である。	